シンポジウムⅠ 「これからの工学部
～女性を増やすには何が必要か～」 プログラム

日本の大学全体に亘って一般的に言えることであるが、工学部において特に著しい問題として、女子・女性の割合が非常に少ないことがある。学部生では、それでもまだ女子比率が約12％となっているが、教員になると、助教、准教授、教授がそれぞれ、7.5％、4.7％、1.5％であり極端に少ない。アメリカでは女性が学部を占める大学の割合が1986年から2006年までの間に増加し、特に博士課程を有する大学では4％から14％と大幅に増加している。

そこで、私たち「ダイバーシティ調査研究WG」（主査：内海英子日本工学教育協会理事・国立女性教育会館理事長）、ダイバーシティの現状での最大の課題は「女性が参加し活躍できる工学部、そして社会の実現である」と考え、『これからの工学部～女性を増やすには何が必要か～』と題してシンポジウムを行うこととした。

工学部を目指す女子学生を増やし、女性が社会でエンジニアとしてその力を十分発揮する機会を得ることができるようするために、本シンポジウムにおいて工学系高等教育機関として何ができるかに焦点を絞り講論する。 日本工学教育協会の会員である全国の工学系大学・学部並びに高専から、一人でも多くの方々の皆様にご参加いただき、問題意識の共有を図り、課題解決へ一歩でも近づくことを期待するものである。

日時・場所：大会2日目8月30日（金）13：00～16：00、総合教育研究棟B棟3階B355講義室
プログラム：
第1部 13：00～14：00 橋頭講演
「日本の高等教育における男女共同参画について」 板東 久美子（文部科学審議官）
第2部 14：10～16：00 パネルディスカッション
「女性技術者からの提案、工学部からの提案」
女性技術者や先進的な事例で成果を上げている教育機関からパネリストとして登壇いただき、工学部がこれから取り組むべき具体的な方策についてフロアと議論を行い、ノウハウを共有する。
パネリスト（50音順）：石川恵子（トヨタテクニカルディベロップメント株式） 猪飼 裕之（名古屋工業大学副学長）、瀧澤 由美子（鈴東大学、社会インフラシステム社）、谷口 功（熊本大学学長）
コーディネーター：板東 久美子（文部科学審議官）

シンポジウムⅡ 「北陸信越地区における特色ある工学教育への取組み」 プログラム

日時・場所：大会3日目8月31日（土）13：00～16：30、総合教育研究棟B棟3階B355講義室
プログラム：
第1部 13：00～14：35 座長 田邉 裕治（新潟大学）
開会挨拶 金子 双男（北陸信越工学教育協会会長・新潟大学）
シンポジウムの趣旨説明 橋本 明恵（福井大学）
講演1「工学教育の“福井大学モデル”の構築を目指して」 小野田 信一（福井大学）
講演2「総合力教育とアクティブラーニング」 佐藤 恵一（金沢工業大学）
講演3「金沢大学の産学連携による博士人材のキャリア形成教育」 森本 勝治（金沢大学）
講演4「信州大学（工学部、経済学部）における人材育成の取り組みの紹介」 海老 賢二（信州大学）
第2部 14：45～16：30 座長 森本 勝治（金沢大学）
講演5「新潟大学工学部の工学力教育とその高度化の取組」 岡 徹雄（新潟大学）
講演6「第10回新潟大学工学部FDシンポジウムに参加して」 平井 良男（富山大学）
講演7「新潟工科大学におけるキャリア形成教育の取り組み」 村上 聡（新潟大学）
講演8「長岡高専における技術者教育のとり組み」 山崎 誠（長岡工業高等専門学校）
講演9「技術者教育の深化に向けて～影響的技術者育成アドレスコース～」 原田 信弘（長岡技術科学大学）
閉会挨拶 東 信彦（長岡技術科学大学）